

特定非営利活動法人 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク

2018(平成30)年度 事業報告書

(2018年6月1日~2019年5月31日)

○ 2018年度事業概要	・・・・・・・・・・p.2
◎ 事業計画に掲げた「重点的取り組み」の達成度評価について	・・・・・・・・・・p.3
1. 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、それを広げる事業	・・・・・・・・・・p.3
2. 冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業	・・・・・・・・・・p.4
3. 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業	・・・・・・・・・・p.4
4. 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業	・・・・・・・・・・p.4
5. 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業	・・・・・・・・・・p.5
6. プレーリーダーの養成に係る事業	・・・・・・・・・・p.6
7. 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業	・・・・・・・・・・p.6
8. 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業	・・・・・・・・・・p.6
9. 組織運営について	・・・・・・・・・・p.11

2018年度事業概要

2018年度は、東日本大震災発生から8年目となり、さまざまな復興事業も最終盤に入ってきた年だった。仙台市沿岸部についていえば、いよいよ海岸公園が冒険広場も含む全面再開を迎えたほか、集団移転跡地の利活用、かさ上げ道路工事など、さまざまな再生への動きが目に見える形になりつつある。人口減少が著しい現地再建地域をはじめ、移転先も含めた暮らし・コミュニティの再生については、これからの課題が顕在化しつつある。

2018年度、冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワークの事業は、引き続き仙台市・岩沼市近郊を中心とした沿岸地域の遊び場づくりが基軸となる中、海岸公園冒険広場の再開で大きな転機は迎え、周辺での活動は一部再編することにはなったが、震災以降生まれた「新たなまち」と、津波被害からの再生途上にある「現地再建地域」の両方で、子どもの遊び場活動と縁側倶楽部など交流サロンの活動を連携させながら、子どもを中心に世代を越えた交流の場を生み出した。

指定管理者として運営する海岸公園冒険広場は、被災した場所に震災前同様の賑わいが戻るか危惧する声もあったが、植樹活動や学校の授業協力、周辺部の活動や関連機関との連携など、さまざまな取り組みが実を結び、1年目にして震災前と同水準の来園者を迎えることができた。周辺地域の行事等への協力も積極的に行ない、海岸公園冒険広場とともに被災からの再生に向かう地域へ貢献できるよう努めた。

本年度は、震災前からの子どもを取り巻く環境の課題についてあらためて目を向けることを意識した年でもあった。環境の再生に向けた大規模な発信拠点としての海岸公園冒険広場を軸に、毎週開催の七郷中央公園冒険遊び場など地域の中の拠点も連携させながら、子どもの遊び場・居場所づくりに取り組んだ。

また、2年目を迎えた「仙台市子育てふれあいプラザ若林（のびすく若林）」の指定管理については、NPO法人せんだいファミリーサポート・ネットワークの持つ乳幼児親子への支援事業の経験とともに、当法人の持つ子どもの遊び、とりわけ外遊びの大切さを伝える活動を加えることで、子育て支援に幅を持たせている。

こうした一連の活動を継続できる組織づくり、特に震災復興を乗り越えた後の世代交代を見据えた組織の緩やかな改変にも微力ながら取り組んでいる。

◎ 事業計画に掲げた「重点的取り組み」の達成度評価について

2018年度事業計画において掲げた6つの重点的取り組みについて、4段階の達成度評価を行なった。定款に沿った事業区分に基づく「1. ～ 9.」の記載内容との対照と合わせ、本表にまとめる。

「重点的取り組み」項目	主な事業 (定款区分)	達成度評価 (◎-○-△-×の4段階)
①再開する海岸公園冒険広場の運営	事業8.	◎ 7月の再開以降、自由に遊べる場として多くの来園者の支持を得られた。また、みどり再生活動はじめ、多くの市民、周辺施設・活動との連携も行ない、交流の機会をつくった。
②震災被害の大きかった地域を中心に取り組む遊び場づくり	事業8.	◎ 冒険広場の再開に合わせて活動の見直しをしながら、仙台市・岩沼市でプレーカーを活用した巡回型の遊び場活動を継続し、冒険広場との相乗効果も生むことができた。
③のびすく若林と連携した、乳幼児親子への遊びの大切さの発信	事業8.(8)	◎ のびすく若林の運営に参画、乳幼児親子を対象とした外遊びのプログラムを通年で実施、5月には拡充することができた。また、出前のびすくの活動もスタートした。
④地域住民の主体的取り組みの支援と、その実績の整理	事業5.(2) 事業8.	○ 約6か所で住民主体の取り組み支援を行なっている。モデルの整理は、今後の課題である。
⑤子ども・子育て支援計画の次期を見据えた、政策の調査・提言活動	事業7.	△ 子ども・子育て支援計画策定に向けて動向を追っているが、提言等には至っていない。
⑥組織運営基盤づくり	9.	○ 1年契約が基本だった職員について、期間の定めのない雇用に転換する制度を創設した。事務局体制の強化については、引き続き課題として残っている。

1. 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、それを広げる事業

(1) 事業実施にあたっての、連携組織の構築

① 「宮城県被災者支援総合交付金」事業運営委員会

「宮城県被災者支援総合交付金」事業の一環で立ち上げた連携組織について、2018年度も継続、意見交換を行うと共に、連携して事業を実施した。

- ・久保田東町内会
- ・田子西中央町内会
- ・(一社)みやぎ連携復興センター
- ・仙台市社会福祉協議会若林事務所
- ・仙台市若林区まちづくり推進課
- ・仙台市若林区中央市民センター
- ・仙台市市民協働推進課

② 海岸公園冒険広場運営委員会

より地域に根差した公園運営を目指し、地域関係者を委員にした運営委員会を開催した。

- ・東六郷コミュニティ市民委員会
- ・七郷地区町内会連合会
- ・六郷小学校、七郷小学校
- ・仙台市私立幼稚園連合会若林地区
- ・六郷市民センター・児童館
- ・七郷市民センター・児童館
- ・せんだい3.11メモリアル交流館
- ・仙台市若林消防署六郷分署
- ・仙台市若林区まちづくり推進課
- ・仙台市若林区公園課
- ・仙台市公園課、百年の杜推進課
- ・海岸公園馬術場

(2) その他、他団体とのネットワーク

- *NPO 法人せんだいファミリーサポート・ネットワークとの乳幼児事業における連携
- *NPO 法人にしいろクレヨンとの田子西地区の復興支援事業における連携
- *宮城県子ども・若者支援会議 参加
- *七郷地区子育て交流会 参加
- *ふるさとの杜再生プロジェクト 委員
- *わたしのふるさとプロジェクト 参加
- *海岸公園運営協議会 参加
- *仙台東部エリア交流施設連絡協議会 参加

上記の継続的な取り組みの他、事業 8. の各事業実施にあたり、地域団体、NPO、児童館、市民センター、小学校等、多くの団体と連携を行なった。

2. 冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業

(1) 宮城県内外の冒険遊び場活動についての情報収集

理事会を中心とした従来からの仙台市周辺の冒険遊び場活動についての情報交換に加え、遊び場活動の支援(事業4・事業5)を通じ、被災地域を中心にひろがりを見せる県内外の遊び場づくり活動の情報を収集した。

(2) ホームページ等での発信

facebook ページや理事・プレーリーダーのブログとも連携させながら情報発信を行なっている。

(3) 「冒険あそび場ネットだより 2017」の発行

2018年7月、前年度の活動をとりまとめ発行した。

(4) 取材・報道等への協力

事業8. を中心に、新聞や情報誌等のメディアの取材に協力した。

3. 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業

若林区六郷東部地区において、遊び場活動とも並行しながら、地域の高齢者等から子ども時代に遊んでいた経験の聞き取りを継続している。

4. 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業

遊び場づくり団体、その他NPO、行政、学校、研究者等から寄せられる下記のような各種相談に対応、必要に応じ具体的な支援も行なった。

- 遊び場づくりへの協力依頼 →事業5. (2)「宮城県を中心とした遊び場活動の支援」
- 遊び場づくりの相談
柴田町太陽の村「冒険遊び場推進協議会」 7/25・9/19(海岸公園で視察受入)・4/23
大和町吉岡地区民有地での遊び場づくり相談
ほか
- 講師派遣
- 研究者・学生からのヒアリングへの対応
- その他、視察・見学受入れ等
- 小学校の授業協力

仙台市立六郷小学校 7/12 …3年生総合学習（植樹と関連した地域学習の一環で）
 仙台市立七郷小学校 7/19 …6年生 防災環境教育として、2年間育てた苗を植樹（事業8.6①）

5. 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業

(1) 若林区を中心とした、プレーカーを活用しての遊び場の運営

指定管理者として運営する海岸公園冒険広場と連携する形で、若林区六郷・七郷地域を中心に、プレーカーを活用しての遊び場を運営した。（→事業8. 参照）

(2) 宮城県を中心とした遊び場活動の支援

県内各地で始まっている市民レベルの遊び場づくりの取り組みを支援するため、プレーリーダー等を派遣した。また、事業8. で実施してきている巡回型の遊び場についても、「地域の運営主体を支援する」形を目指し、下記⑤～⑩を支援の形で取り組んだ。

<事業8. 以外の遊び場活動支援>

①ふるじろプレーパークの会（若林区）「ふるじろプレーパーク」
 6/25 7/26 7/27 3/24 4回 のべ4人派遣

<事業8. での遊び場活動支援> ②～⑥ （→詳細は、事業8. 参照）

②乳幼児室内あそび場ちびひろ「ちびひろ」…2017年4月～新体制での運営を支援
 ③片平地区まちづくり会 のりっば部会「のりっばで遊ぼう」…運営支援
 ④いわぬまあそび場の会・ニコニコキッズ「里の杜あそび場」…運営支援
 ⑤田子西こだま町内会「お茶のこさいさい」…2016年7月～町内会主催の活動を支援
 ⑥田子西中央町内会「外で遊ぼう！」…2017年4月～町内会主催の活動を支援

(3) 地域の子どもイベント等への参加

- ・大和町立吉岡小学校バザー実行委員会 11/10
- ・仙台ひと・まち交流財団「ひとまち児童館フェスタ」 11/25

(4) 杜々かんきょうレスキュー隊環境学習プログラム実践

平成21年度に杜の都の市民環境教育・学習推進会議（FEEL Sendai）の環境学習プログラムに提案を行い、幼児から対象とするプログラム「いろ色発見隊～季節のカメラマン」を、11か所で実践した。

実施団体	実施日	実施場所	対象
袋原保育所	10/5（金）	名取川河川敷	4・5才児20名
高森サーラ保育園	10/12（金）	近隣の田んぼ	5才児21名
折立保育所	10/15（月）	折立公園	4・5才児20名
中田保育所	10/16（火）	園内・中田小校庭	5才児24名
七北田保育所	10/19（金）	将監愛宕神社	4・5才児25名
コスモス将監保育園	10/23（火）	将監沼周辺・近隣公園	5才児22名
マザースサンピア保育園	10/24（水）	海岸公園冒険広場	5才児13名
飯田保育所	10/25（木）	保育所内	4・5才児23名
あさひの森保育園	10/31（水）	台原森林公園	5才児24名
能仁保児園	11/1（木）	新寺4丁目公園	5才児19名
大野田すぎのこ保育園	11/8（木）	富沢公園	5才児7名

6. プレーリーダーの養成に係る事業

年度当初から海岸公園冒険広場の開園準備に入っていた 2018 年度は、同公園の運営にあたる職員を中心に、スタッフ研修の機会を持った。

(1) 講座・研修等の実施

運営 1 年目となる海岸公園冒険広場のスタッフ対象を主対象に、下記講座・研修を実施したほか、外部研修にも積極的に参加した。また、遊び場での実践も含め、遊びに関わる大人の育成に努めた。

実施日	内容	講師	実施枠組等	対象
2018/6/5	普通救命講習	若林消防署六郷分署	海岸公園冒険広場指定管理業務	スタッフ
2018/6/18	遊具点検講習	内部研修	海岸公園冒険広場指定管理業務	スタッフ
2018/8/28	刈払機等取扱講習	東洋緑化	海岸公園冒険広場指定管理業務	スタッフ
2018/12/6 2019/1/11	公園周辺施設をまわる	内部研修	海岸公園冒険広場指定管理業務	スタッフ
2018/12/18	子どもの遊びについて	内部研修	海岸公園冒険広場指定管理業務	スタッフ
2019/2/12 2019/3/5	プレイワークベーシック講座	東京学芸大学教授 及川研氏	海岸公園冒険広場指定管理業務	スタッフ ボランティア
2019/2/26	震災遺構荒浜小学校見学	同施設 菅原氏	海岸公園冒険広場指定管理業務	スタッフ
2019/3/26	子どもの遊びについて	内部研修	海岸公園冒険広場指定管理業務	スタッフ
2019/5/28	傷病対応研修・危険管理研修	内部研修	海岸公園冒険広場指定管理業務	スタッフ

(2) 「仙台市協働人材育成事業」の受入れ

- ・せんだい・みやぎ NPO センター「仙台市協働人材育成事業」研修生 1 名（5 日間）

7. 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業

(1) 被災地域の復興においての子どもの遊び場の重要性についての発信

事業 8. として実施する遊び場づくりの活動を通し、被災地域の復興においての子どもの遊び場の重要性について様々な場で発信を行なった。

(2) 子ども・子育て支援計画の次期計画策定の動向調査

こども子育て支援法に基づく子ども・子育て支援計画の次の策定期（2020 年度～）に向けた検討の動向を探った。

8. 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業

(1) 海岸公園冒険広場の運営 毎週(火)以外週 6 日開園 5 月末までの推定来園者数：約 16.2 万人

東日本大震災での被災以降休園していた海岸公園冒険広場の再開に合わせ、2019 年 7 月 8 日より海岸公園冒険広場の運営を始めた。（東洋緑化株式会社と共同企業体として指定管理者となっている。）

まだまだ沿岸部に足を運ぶのに抵抗があるという人もいるなか、来園者は大きく減るのではないかと予想もあったが、下記関連事業との連携なども奏功し、震災前並みに多くの来園者を迎えることがで

きた。

震災前からの「自然と親しむ場」「自由に遊びを創造できる場」といった役割に加え、周辺を含めた賑わいや交流の創出、震災を伝え防災に資する役割が加わったのを受け、沿岸部に人の流れを生むため、自主事業は園内で実施するものに留めず、(2)以下の様々な取り組みも自主事業と位置付けながら周辺部で幅広く実施した。また、震災を伝える取り組みにも力を入れた。

(2) 冒険広場周辺地域および岩沼市で開催する遊び場

海岸公園冒険広場再開するのに合わせ、いくつかの遊び場について再編・運営形態の変更を行なったが、引き続き、冒険広場からやや内陸部に入った若林区六郷・七郷地域および宮城野区田子西地区を中心に複数個所で「遊び場づくり」活動を展開した。

震災前から冒険広場が果たしていた「あそびを通して子どもの育ちを支える」役割と、東日本大震災発生後「心のケア」の役割を担うという当初の目的に加え、屋外の利点を活かして人のつながり～コミュニティづくりの場としての役割もねらいとし活動した。

昨年度に引き続き、長期的な活動の継続を意識し、「地域の運営主体を支援する」形での取り組みにも力を入れた。(※あそび場名称前に「支援」と記載。)

<若林区：七郷地域の遊び場> ①～⑤

七郷地域で実施する遊び場は、①②③⑤の4か所が「荒井公共土地区画整理地区」内にあり、④は「荒井東土地区画整理地区」にある。両地区は、隣接する荒井西・荒井南地区と共に、集団移転先も割り当てられた区画整理区域である。復興公営住宅も多く立地すると共に、地下鉄東西線開通などにより新市街地もひろがり、新住民同士、新住民と旧住民、など多様な交流の場が期待される地域である。

① 七郷あそび場（荒井4号公園） 6月中の毎週土曜 計5回 のべ263人

休園中の海岸公園冒険広場が目指していた自由な遊び場づくりを、他の公園で実現する「海岸公園冒険広場サテライト業務」として実施してきたが、海岸公園冒険広場の再開に合わせ2018年6月で活動を終了した。これまでの利用者は海岸公園や七郷中央公園につなげていけるよう努めると共に、活動場所の荒井4号公園に隣接する児童館・市民センターと協働で続けてきた事業については、遊び場終了後も引き続き取り組んだ。

② 七郷中央公園冒険あそび場（七郷中央公園） 毎週水曜 計49回 のべ3445人

【日産スマイルサポート基金】

伊在/荒井/蒲町地区の境界にある「七郷中央公園」を拠点にした、より自由度の高い冒険遊び場活動を実施した。週1回の継続的な遊び場とすることで、乳幼児親子から学童・中高生まで自由に遊べ、ありのままにいられる居場所となる場づくりを目指した。

夏以降は、公園内仮設住宅跡地の多目的広場が復旧・一般開放され、さらに自由度の高い遊び場となった。初めて一年を通して実施したが、寒い時期も通ってくる小学生は多く、遊び場・居場所として認められてきていることを感じている。子ども・子どもを持つ保護者に限らず、散歩等で公園を訪ねる地域の年配の方々も含め、世代を超えたコミュニケーションも生んでいる。

③ <<支援>> 乳幼児室内あそびば「ちびひろ」（上荒井公会堂） 【日産スマイルサポート基金】

町内会の公会堂を活動場所とした、旧住民と新住民の交流を生むきっかけともなる乳幼児親子の遊び場。直接の遊び場開催支援ではなく、運営のサポート中心の支援となった。「自分たちでできる形を模索する」一年となり、2019年4月以降は、「長期休み中の木曜日開催」という形になった。

④ 荒井東復興公営住宅のひろばであそぼう（荒井東復興公営住宅） 6/11 6/25 計2回 のべ41人

【宮城県被災者支援総合交付金事業】

居住者同士の交流（多世代の交流、住宅内での枠をこえたさまざまな交流）、周辺の親子との交流の機会づくりを目指して2014年10月から取り組んできた遊び場活動。関係構築について、一定の成果が

得られたものと判断し、2018年6月をもって定期的活動については終了することとした。その後は、年数回の交流サロンの他、行事等で随時の協力をしていくこととし、夏祭りの協力などを行なった。

⑤ 下荒井公会堂であそぼ（下荒井公会堂）月2回程度 月曜日 計16回 150人

【宮城県被災者支援総合交付金事業】

荒井東復興公営住宅に最も近い既存町内会＝下荒井町内会の会館での乳幼児親子対象の遊び場。今年度も、新市街地に被災して移転してきた家族、被災理由でなく移転してきた家族、既存市街地に暮らす家族、それぞれが交流する場になった。

＜若林区：六郷地域の遊び場＞ ⑥～⑧

若林区六郷東部地区（旧東六郷小学区周辺）で被災した人の多くは、仮設住宅の段階から、同じ六郷地域のやや内陸の場所（六郷小学校学区周辺）に仮住まいを設けた。その後、復興公営住宅が立地ほか個別再建も含め、この周辺に移り住んだ人は多い。2017年3月には、東六郷小学校が六郷小学校に統合されるなど、子どもたちを取り巻く環境も新たな段階に入った。

こうしたなか、移転先の地区での新たな関係づくりと、人口減少の激しい現地再建地域のコミュニティ活性化なども視野に、3か所で遊び場活動を実施した。

⑥ 六郷あそび場（六郷小学校校庭） 6月：毎週土曜4回 以降：長期休み中の平日開催 8回

計12回 のべ324人 【住友商事東日本再生フォローアッププログラム】

2017年に東六郷小が統合され、広がった学区で新たなスタートを切った六郷小学校の校庭での遊び場。海岸公園冒険広場の再開に合わせ、長期休み中の平日開催となった。

多くの六郷小児童にとっては、その実感は強くはない。そんな状況の中、旧六郷小学区の児童も旧東六郷小校区にも関心を持ってもらえるよう、⑦「東六郷で遊ぼう」にも子どもたちをつないでいき、旧東六郷小も含めた新たな地域意識の醸成にもつながるものになることを意識して遊び場を開催した。

⑦ 東六郷で遊ぼう（旧東六郷小校庭他）計4回 のべ60人 【住友商事東日本再生フォローアッププログラム】

校舎の解体工事を終えた東六郷小の校庭に久しぶりに子どもの遊ぶ姿を、という思いで昨年度続けていた日吉神社から活動場所を戻して実施した。大きな人口減少がみられる現地再建地域が持つ、子どもの遊ぶ環境の魅力に気づく機会とすることも目指し、周辺にも積極的に出て四季を楽しんだ。

地域の大人から聞いた子どもの頃の思い出をもとに実際にやってみよう、という取り組みは続けており、9/29(土)は、地元の井土生産組合の協力も得て、海岸公園冒険広場の「となりの田んぼにイナゴを探しに行こう」も番外編として実施した。

⑧ 久保田東あそび場（久保田東集会所隣接の公園） のべ125人 【宮城県被災者支援総合交付金事業】

防災集団移転促進事業による「六郷地区」に設立された久保田東町内会の集会所に隣接する公園での遊び場。空き区画に建てられた一般住宅への入居者など、多世代の交流が課題になっているが、遊び場なら見られる親子の姿もあり、町内会からも期待されている。交流サロン活動「縁側倶楽部」とできるだけ活動日を合わせ、集会所から子どもが遊ぶ様子を見てもらえるようにし、交流が生まれるきっかけとなるよう努めた。

＜仙台市宮城野区：田子西地域の遊び場＞ ⑨ ⑩ いずれも【宮城県被災者支援総合交付金事業】

防災集団移転促進事業の移転先になっている田子西地区・同隣接地区の2か所で活動を継続した。いずれも町内会の交流を支援する形で、遊び場・交流サロン活動にNPO法人にじいろクレヨンと連携して取り組んだ。なお、田子西三丁目町内会の活動は、行事協力に移行した。

⑨ ≪支援≫お茶の子さいさい（田子西第二復興公営住宅集会所）＜主催：田子西こだま町内会＞ 計10回 460人

集団移転地区と比べるとかなり幅広い地区から住民が集まっており、世代を超えて住民同士が知り合える場をつくりたいという町内会からの要望があり、2016年7月より始まった活動。高齢者が中心に集

まる交流サロン活動を実施する集会所内と、子どもが中心に集まって遊ぶ広場の間で、できるだけ相互の行き来が生まれるよう配慮しながら活動した。大人の間で子どもをおおらかに見守る雰囲気がつくられてきており、回を重ねるごとに、子どもが集会所内の大人の傍らで過ごす時間が増えてきた。

⑩ <<支援>>外で遊ぼう（田子西二丁目公園）〈主催：田子西中央町内会〉 計10回 のべ867人

田子西中央町内会は、被災し移転してきた住民、震災に関係なく転居してきた住民、従前からの住民が混在している。同町内会からの相談で始まった、属性や世代を超えて交流できる機会づくりを目指した遊び場。

田子西地区全体の中央にある立地特性も活き、田子西地区の各町内会の子たちが集まり年齢を超えて共に遊ぶ場となっている。昨年度に引き続き、「田子西さんさん子ども会」の行事にも協力した。

<その他仙台市内の遊び場> ⑪ ⑫

⑪ 若林小学校あそび場（若林区：若林小学校校庭） 月1回 計9回 のべ508人【日産スマイルサポート基金】

若林小学校・若林区中央市民センター・若林市民センターとの協働事業として毎月1回の開催を継続して7年目になった。小学校の授業時間増加等の影響で、放課後の開催に難しさは生まれてきているが、可能な形を模索しながら続けている。昨年に引き続き、おやじの会の行事への協力（③②）も行った。

⑫ <<支援>>片平地区「のりっぱであそぼう」（青葉区：まちなか農園藤坂隣接の空地）

2015年に「新しい東北先導モデル事業」としてスタートした取り組みが、2016年度より近隣住民等で組織される「のりっぱ部会」遊び場プロジェクトチームの取り組みとして再スタートしており、引き続き支援している。東北福祉大サークル「追廻セツルメント」による継続的な活動も2年目になっており、引き続き学生の支援にも力を入れた。

<岩沼市の遊び場> ⑬ ⑭

⑬ 楽農村で遊ぼう（岩沼市：朝どり+楽農村）計6回 のべ235人【住友商事東日本再生フォローアッププログラム】

岩沼市玉浦地区の現地再建区域の農家が運営する市民農園における、農地の環境を活かした遊び場。都市部の親子の参加も多く交流人口を生む効果が見られることから、海岸公園冒険広場再開後も、楽農村との共催の形で継続している。朝3時～10時開催の「早起き遊び場」など、他では見られない試みも行なっている。

⑭ <<支援>>里の杜あそび場（岩沼市：里の杜中央公園）

岩沼市の被災者支援事業として2013年に始まった「里の杜あそび場」を引き継いだ、市民による「いわぬまあそび場の会」および学生ボランティア団体「にこにこキッズ」の主催事業の遊び場。2018年度は、プレーリーダーは派遣しない形での開催に移行していったが、学生ボランティアのサポートを行うことも含め、活動の継続を支援している。

(3)他団体の実施する企画への開催支援等 【住友商事東日本再生フォローアッププログラムほか】

前年度に引き続き、遊び場活動実施地域の町内会や復興公営住宅自治会、市民センター等の夏祭りや子ども企画への協力を行なった。

海岸公園冒険広場が再開した本年度は、⑧冒険広場周辺地区の元住民が住民が手作りで制作した舟に乗って貞山運河の対岸に渡る企画や、⑨⑭「荒浜のめぐみキッチン」の農地の環境を活かした企画など、沿岸地域の持つ魅力にあらためて光を当て、遊びを通して参加者・関係者を応援する新たな取り組みも増えた。

- ① 七郷市民センター・七郷小おやづの会「七郷子どもクラブ」 6/9
- ② 若林小おやじっ子クラブ「学校に泊まろう」 7/28
- ③ 上荒井町内会「上荒井夏まつり」 8/4

- ④ わたしのふるさとプロジェクト「六郷東部夏祭り」 8/18
- ⑤ 荒井東町内会 夏祭り 8/19
- ⑥ 田子西中央町内会 夏祭り 8/21
- ⑦ 荒井東1号公園「あらフェス」 9/2
- ⑧ せんだい3.11 メモリアル交流館「馬舟に乗って浜辺を見に行こう」 9/16
- ⑨ 荒浜のめぐみキッチン「泥遊びとドラム缶風呂」 9/30
- ⑩ せんだい3.11 メモリアル交流館「食べられる生き物を探しに行くツアー」 10/13
- ⑪ 六郷東部まちづくり部会「六郷東部ふるさと交流祭」 10/28
- ⑫ わたしのふるさとプロジェクト「第3回 鎮魂の花火」 1/26
- ⑬ 田子西さんさん子ども会 歓送迎会 2/24
- ⑭ 荒浜のめぐみキッチン 親子向け野焼きイベント 4/21
- ⑮ 学生ボランティア団体 ReRoots 田植え企画 5/26

(4)遊び場づくりと連携した、大人も集まれる「縁側倶楽部」等の支援活動の実施

【宮城県被災者支援総合交付金事業】

遊び場とも連携した「ものづくり+お茶っこのみ（交流サロン）」を、復興公営住宅や集団移転先の集会所で継続的に実施し、大人が集うきっかけづくりを行なった。①荒井東地区については、遊び場活動は終了したが、交流サロンについては季節ごとに実施している。②久保田東地区は、若林区六郷地区に生まれた復興公営住宅・集団移転先での活動について、若林区保健福祉センターとも連携しながら状況把握・検討を継続した。その他、交流活動に取り組む他の支援団体と連携・協力した事業を行なうと共に、随時相談を受けた。

① 荒井東復興公営住宅集会所「荒井東縁側倶楽部」 3回 計57人

遊び場活動は6月で終了したが、その後も季節に応じた企画を継続した。参加者の声も聞きながらテーマを決めて企画に取り入れた。今年度も、臨床心理士・カウンセラーも協力者として活動に入った。

② 久保田東町内会集会所「久保田東縁側倶楽部」 原則第4月曜 9回 計234人

防災集団移転促進事業による移転先の町内会集会所での交流サロンだが、町内会以外の人でも参加できることとなっており、近隣の復興公営住宅や、六郷東部の現地再建地域の住民も集まる場になっている。

定期的に活動が定着するにしがたい、昨年度と比較しても参加者数が増えてきた。また、六郷地域の被災者自身による手作りサークル「マートル」の協力を継続的に得るようになり、ものづくりの活動を充実させると共に、交流を促進させることができた。

(5)沿岸部の環境調査

様々な復旧工事の進む仙台市沿岸部において、生き物の回復状況を探り、その様子から被災地域の「再生」のあり方も考えていくことを目指し、季節ごとに海岸公園冒険広場や貞山堀など冒険広場の周辺を中心とした沿岸部の生き物を調査した。

(6)「ふるさとの杜再生プロジェクト」参画

仙台市・市民・NPO・企業等の皆様の力を結集し、海岸防災林をはじめとした東部沿岸地域のみどりの再生を図るプロジェクト。2018年度は、再開した海岸公園冒険広場でも、多くの植樹・育樹会を協働で実施した。

- ① 仙台市立七郷小児童による海岸公園植樹 7/19(木) 160人 同育樹活動 9/19(水)
- ② 仙台市立六郷小・福島県只見町朝日小交流事業での海岸公園植樹 7/27(金) 35人
- ③ 「ふるさとの杜再生プロジェクト」井土地区市民植樹 11/25(日) 450人

(7)仙台平野の居久根再生「大内さんちの居久根プロジェクト」

津波で被災した若林区六郷東部地区で、広く人々が集える新しいかたちの居久根の再生に向けて取り

組んだ前年度に引続き、所有者の大内氏のほか、支援団体、研究者・学生、近隣の幼稚園、一般市民有志と共に活動した。

(8) 「のびすく若林」の運営への参画

2017年秋開館の親子ふれあいプラザ「のびすく若林」について、指定管理者の構成団体として運営。週3日プレーリーダーを配置すると共に、「ふるさと広場へお散歩に行こう」「パパとお外あそび」などの企画を行なった。また、2018年3月、外遊び啓蒙リーフレット「おそとで遊ぼう！」も作成し、子育て支援のなかで子どもの遊び・外遊びの大切さを伝えていった。

そのほか2018年度は、地域連携事業のひとつとして、若林区六郷地区の2か所で「出前のびすく 子育てサロン」も開始した。

①久保田東子育てサロン（久保田東集会所） 12/19(水) 4/16(火) 2回 計33人

(2)の遊び場も展開している集会所でのサロン。乳幼児を持つ若い世代が、この地域に馴染み根付くことを願い、ゆるやかな出会いの場を作る。世代間交流も視野に入れ、住民のニーズに合わせた内容を実施。

②六郷子育てサロン（六郷市民センター） 5/17(金)13人 ※六郷市民センターとの共催事業

震災後、自主的な子育てグループが散逸し、子育て支援の必要が特に求められている六郷地域において、六郷市民センターと共催で年3回のサロンを行なうこととなった。それぞれの強みを活かした企画・実施のなかで、地域での子育てをすすめていく。

「事業8.」各取組みの財源別整理

	海岸公園冒険広場 指定管理業務	宮城県 被災者支援 総合交付金	日産 プレジデント基金	住友商事 フォローアップ プログラム	その他
◎ 海岸公園冒険広場	◎(7月間)				
① 七郷	◎(6月終了)				
② 七郷中央公園			○(～12月)		○(1月～)
③ 上荒井公会堂			○(～12月)		○(1月～)
④ 荒井東復興公営住宅		◎(6月終了)			
⑤ 下荒井公会堂		◎			
⑥ 六郷				◎	
⑦ 東六郷				◎	
⑧ 久保田東		◎			
⑨ 田子西第二復興公営住宅		◎			
⑩ 田子西二丁目公園		◎			
⑪ 若林小学校			○(～12月)		○(1月～)
⑫ 片平地区					◎
⑬ 楽農村(岩沼)				◎	
⑭ 里の杜(岩沼)					◎

9. 組織運営について

2016年度（2017年5月）に策定した中期計画で具体的な取り組みとして挙げた「中長期を見据えた人材の確保・育成を可能にする仕組みをつくる。職員の雇用方法や働き方についても検討を行う。」に基づき、雇用環境の改善を行なった。前年度に検討、導入することを決めた職員の無期雇用転換制度をスタートさせた。その他、厚労省のキャリアアップ助成金も活用しながら、雇用環境の改善に努めた。

一方、事務局体制の強化や、会員・寄付者の増加への取り組みについては、引き続き課題となっている。